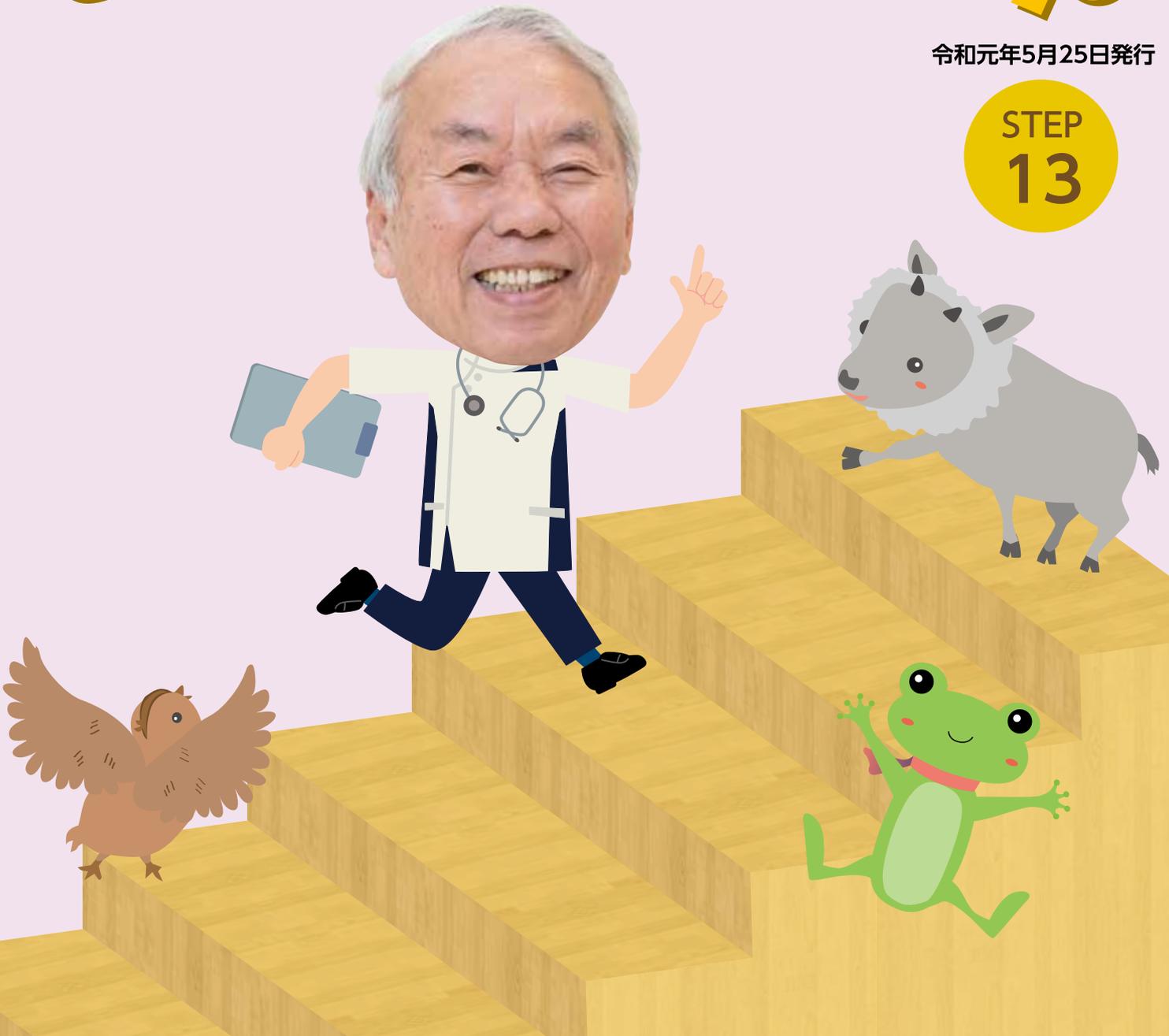


Step by Step

令和元年5月25日発行

STEP
13



《特集》

「覚えられない」「集中できない」など以前の自分との違いを感じる…
高次脳機能障害を知っていますか？

- わたしたちの思い～臨床検査技師編～／新病院長ご紹介
- 病院からのお知らせ

ヒト



のむら ただお
野村 忠雄 医師

プロフィール

金沢大学医学部、金沢大学大学院卒業。金沢大学医療技術短期大学部教授、石川整肢学園施設長を経て、2007年から2013年まで富山県高志リハビリテーション病院長。2007年より富山県高次脳機能障害支援センター長。2014年より金城大学医療健康学部教授。日本リハビリテーション医学会認定 専門医・認定臨床医。日本障害者スポーツ協会障害者スポーツ医。医学博士。



●誰もが希望を持って幸せに生きてもらえるように伴走していきたい

Q. 小児整形外科医師を志したきっかけは何ですか？

A. 子どもの頃から外科医の親父や小児整形外科医の兄を見て育ったので、それ以外の仕事は逆に不安で想像できませんでした。医学生になってから、夏休みなどにはいろいろな病院へ自分で頼んで研修に行っていました。最後の夏休みに石川整肢学園で診察の手伝いをした際、小児整形外科医の少なさを知りました。この子たちを診る医師がいなければ困るだろうし、少しは世の中のためになるかなと思ったことがきっかけです。

Q. 小児整形外科医、リハビリテーション科医としてどのような気持ちで診療していますか？

A. 小児整形外科医として歩けない子に歩けるようにするための手術を行っているうちに、この子たちの幸せとは何だろうと考えるようになりました。歩けることは良いことに決まっていますが、歩けるか歩けないかで人の幸せが決まるわけではなく、医療技術や知識だけでは子どもたちを幸せにできないのではないかと感じるようになりました。それからは、子どもや家族が生きがいを持って生きていけるようなかたちを整えてあげたいと思い、家族と話し合える場を作ったり、保育士や学校の先生達とのネットワークづくりなどを行うようになりました。その後、大学病院に戻りリハビリテーション科として子どもと大人のリハビリテーションにも携わるようになりました。私の理念であるリハビリテーションマインドとは、障害があっても、その人の人格を尊重し、1人の人間として自分も対等な気持ちで関わることと思っています。そして、障害者や高齢者の住みやすい社会は、誰にとっても住みやすい社会であり、そうした社会を作っていくお手伝いができればと思っています。リハビリテーション科の医師だけがリハビリテーションマインドを持つのではなく、いろいろな職種の方がリハビリテーションマインドを持ってもらいたいと思っています。

Q. 富山県高次脳機能障害支援センター長として、支援についての考えや思いを教えてください。

A. 高次脳機能障害の種類や程度は人それぞれです。ただ、共通していることは本人だけでなく、家族、学校や職場の周りの人達も

いろいろな面で困っているということです。まず、困っていることを整理し、その原因が脳の損傷によるものかどうかをハッキリさせること、すなわち高次脳機能障害の診断、評価をすることが大事だと思っています。次に患者さんのニーズに応えるためには医療だけでなく、教育・就労機関などの周りの人たちとのサポートが必要となります。そのため、支援のためのネットワークをつくり、適切なサポート体制を提供することが高次脳機能障害支援センターの役割の1つだと思っています。また、家族会と協力して本人や家族同士で悩みや思いを話せる場を提供し、心の整理などを行うピアカウンセリングなども行っています。

Q. 先生が大切にしていること、心がけていることは何ですか？

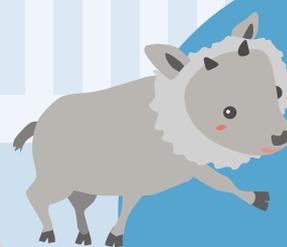
A. 医療はある意味、サービス業です。患者さんが「病院にきて良かった、病気や障害を持っていても頑張っていこう」と思ってもらえるように心がけています。診療では、患者さんの思いをしっかり聞いて、どんな風になりたいのかを聞き取るように心がけています。些細なことでも以前に比べて良くなった所を見つけて伝え、患者さんが自信を持ってくださることも大切にしています。そして、次の目標や希望をもって生きてもらえるよう、患者さんと一緒に走る伴走者がリハビリテーション科医だと思っています。

*

休みの日には、カメラで野鳥の撮影をしたり、ガーデニングや釣りなど、多趣味な野村先生。座右の銘は「日々進化」とのこと。仕事や遊びも変化を恐れず、何事にも挑戦される野村先生です。

野村先生の外来
リハビリテーション科：水曜（午前）
小児整形外科：木曜（午前）

※受診をご希望の方は、外来に電話等でご相談ください。



モ

高次脳機能障害の 診断評価！

高次脳機能障害の診断は、リハビリテーション科、脳神経外科、小児科の医師が診察し、脳画像検査と神経心理学的評価を行ったうえで診断します。また、希望される方には、運転評価も行っています。

脳画像検査



MRI装置はX線を使わずに、磁気と電波を使って体の中を見る画像診断装置です。また造影剤を使わずに脳や下肢の動静脈を描出できます。お子さんの場合などは不安を取り除けるように、できるだけ撮影時も離れずに一緒に入って撮影したり、眠ってもらって撮影する場合があります。障害のある方の場合は更衣介助を行うなど、安全に配慮しています。



脳画像をもとに、脳外傷や脳卒中などの後遺症の有無を判断します。また脳の損傷部位によって症状が異なるため、今後の生活における症状を予測することも大切です。

神経心理学的評価



心理士や作業療法士が、記憶力や注意力、効率的に予測した行動ができるかなどの力をみるさまざまな検査を行います。検査をとおして、苦手になったことやできていることなどを明確にして、自分の状態に気づいたり、知ってもらい、今後の生活への影響をイメージしやすいように説明しています。



自動車運転評価



富山県は自動車所有率が高く、運転は社会参加をするうえで重要です。「運転シミュレーター（DS-7000R）」で実車に近い運転環境を再現し、安全な運転が再開可能かどうか身体・認知機能を総合的に評価したり、運転練習に用いたりしています。



コト



高次脳機能障害支援センター

当院では、2007年1月に高次脳機能障害支援センターが開設されました。当センターでは、医師（リハビリテーション科、脳神経外科、小児科）、心理士、ソーシャルワーカー、作業療法士、福祉施設職員などの多職種によるチームで、高次脳機能障害者（児）の支援に取り組んでいます。

●高次脳機能障害の原因と症状

「高次脳機能障害」とは、脳の損傷で記憶力や注意力、判断力など、日常生活や学校・職場での活動に支障をきたす後遺症です。



原因

- ・交通事故や転落などによる脳外傷
- ・脳卒中などの脳血管障害
- ・脳腫瘍・急性脳炎の後遺症
- ・溺水などによる低酸素脳症 など



症状

- ・覚えられない
- ・集中できない、落ち着きがない
- ・こだわりが強い、感情のコントロールが難しい
- ・効率よく行動したり段取りができない など



●支援の流れ

電話相談 面談

支援コーディネーターがご本人やご家族から、受傷発症の経緯や現在の状態、生活環境をお聞きします。また、就学・就労などのご要望等を伺います。

医学的 診断

医師の診察、画像診断(MRI、CT等)、神経心理学的検査を行い、医学的診断や評価の結果をもとに医師がご本人の状態を説明します。

支援 内容

リハビリ

必要に応じて作業や言語療法などの個別リハビリやグループ訓練など集団認知リハビリを行います。

家族支援

障害の理解、情報交換や交流の場を提供し、精神的なサポートを行います。

生活支援

地域で生活するうえで必要となる社会性や生活機能の向上のための支援を行います。

子どもからおとなまで ライフステージに合った支援



その他

障害者年金、精神保健福祉手帳、自立支援医療など制度の利用を支援します。

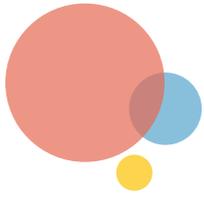
就学（復学）支援

教育機関と連携しながら復学など安心して学校で過ごせるよう支援をします。

就労（復職）支援

職場訪問などを行ったり、就労支援機関と連携して復職や新規就労の支援をします。





わたしたちの思い ～臨床検査技師～



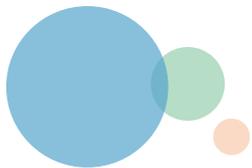
私たち臨床検査技師は、血液や尿などの検体検査、心電図検査・呼吸機能検査・脳波検査などの生理機能検査を行っています。

検体検査では、外来患者さんの場合、結果を待ってから診察になることもあるので早く正確にと意識しています。また、生理機能検査では、年配の方や小児科の患者さんが多いので、わかりやすくゆっくり話すように心がけています。

検査のほかに私は、栄養サポートチーム(NST)や糖尿病支援チームに参加しています。NSTでは週1回のミーティング前に対象患者さんの検査結果の入力、糖尿病支援チームでは糖尿病教室で「糖尿病の検査について」の話をそれぞれ担当しています。

当院の臨床検査科は人数が少ないこともあり、各々がいろいろな検査を行っています。同時に複数の検査を行ったりして、臨機応変に正確かつ迅速に対応する力が求められ大変ですが、やりがいも感じています。患者さんから得た検査情報を医師に報告していることから、人の命に関わることもある仕事であることを忘れずに、緊張感を持ってこれからも検査を行っていきたいと思っています。

石橋 史子



新病院長ご紹介



皆さん、はじめまして。平成31年4月1日付で富山県リハビリテーション病院・こども支援センターの病院長に就任しました影近謙治かげちけんじです。専門分野はリハビリテーション医学一般で、病気になって障害が残った患者さんの活動・生活の質をあげ、楽しい社会参加へ導く医者です。出身は金沢市ですが、ルーツは富山県福光町です。「患者さんを家族のように当事者意識を持って治療しよう。スタッフは皆家族だから何でも言い合おう」が口癖です。院長室は常にオープンになっています。相談室を通していつでも何でもご相談ください。

趣味は、やったこともないことでも何でも首を突っ込むことです。欠点でもあります。しかし、明るく前向きに皆さんとやっていくのが目標です。元気で活気にあふれた富山県リハビリテーション病院・こども支援センターにしていきたいと思っています。「あそこに行けば何かがある」、という新しいリハビリテーション医療情報文化の発信源となる病院にしていきたいと思っています。皆様が納得のいく医療を提供できるよう努力いたしますのでよろしくお願いいたします。



院長室のドアには、職員が描いた似顔絵が飾ってあります！
患者さんや職員が親しみやすい雰囲気をつくってくださる影近院長です☆



● 病院からのお知らせ

*変更になる場合もありますので、詳細は、ホームページまたは、総合受付横の案内板でご確認ください。

6月

4日(火)	教室	糖尿病教室(病気の知識、食事の基本)
	サロン	ほのぼのぴあサロン(高次脳機能障害者)
5日(水)	教室	リハビリテーション家族教室(脊髄損傷)
11日(火)	講座	ほっぴ支援講座(乳幼児支援)
	教室	糖尿病教室(食事の管理、歯の衛生)
18日(火)	教室	糖尿病教室(糖尿病の検査、薬の知識)
19日(水)	サロン	保護者サロン(発達障害・成人期)
25日(火)	教室	リハビリテーション家族教室(脳卒中・健康生活編)
	教室	糖尿病教室(健康管理の実際、運動療法)
	講座	ほっぴ支援講座(特別支援教育について)

7月

2日(火)	教室	糖尿病教室(病気の知識、食事の基本)
	サロン	ほのぼのぴあサロン(高次脳機能障害者)
9日(火)	講座	ほっぴ支援講座(学齢期支援)
	教室	糖尿病教室(食事の管理、歯の衛生)
16日(火)	教室	糖尿病教室(糖尿病の検査、薬の知識)
17日(水)	サロン	保護者サロン(発達障害・学童期)
23日(火)	教室	糖尿病教室(健康管理の実際、運動療法)
	講座	ほっぴ支援講座(性について)
	教室	リハビリテーション家族教室(脳卒中・環境調整編)
24日(水)	教室	高次脳機能障害者家族教室(認知訓練について)
	教室	リハビリテーション家族教室(脳卒中・在宅介護編)

【富山高次脳機能障害リハビリテーション講習会】

令和元年6月29日(土) 13:30～16:00 場所：サンシップとやま

県民公開講座 講演①「突然、妻が倒れたら～これまでの伴走、これからの伴走」

松本 方哉氏(ジャーナリスト、当事者家族)

講演②「高次脳機能障害を抱えて生きる人たちとの出会い、そして学んだこと」

太田 令子氏(高次脳機能障害支援センターアドバイザー)



● 外来診療案内 受付時間【午前】8:30～11:00【午後】13:00～15:00 診療時間 9:00～17:00

2019年5月1日現在

診療科	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
リハビリテーション科	●		●		●		●		●	
内科	●		●		●		●		●	
脳神経内科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
整形外科	●		●		●		●		●	
脳神経外科	●		●		●		●		●	
泌尿器科					●	●	●	●		
精神科				●						●
皮膚科						●				
眼科										休診中
耳鼻咽喉科								●	●	
歯科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児整形外科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児神経科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
子どもの心(児童精神科)			●		●	●	第2・3・4	●	●	●

※専門外来(糖尿病、甲状腺、嚥下、腎臓・高血圧、パーキンソン病、非侵襲的脳刺激治療、義肢・装具、高次脳機能など)については、ホームページの案内をご確認ください。

● 交通アクセス



● あいの風とやま鉄道線東富山駅下車、東富山駅より徒歩バス
東富山駅より徒歩バス→リハビリセンター行乗車、終点下車

● 北陸自動車道

金沢方面＝富山西ICより国道8号線方面へ向かい、本郷西交差点右折、国道8号線新屋交差点左折
新潟方面＝滑川ICより国道8号線方面へ向かい、稲泉交差点左折、国道8号線新屋交差点右折

● 富山駅南口バスターミナルより徒歩バス(所要時間約30分) リハビリセンター行 乗車、終点下車

富山地方鉄道 路線バス時刻表

平成31年4月1日改正

平日(月～金曜日)ダイヤ

土曜・日曜・祝日(8月14日～16日)(12月30日～1月3日)ダイヤ

リハビリセンター行き (下赤江・豊若町・済生会病院経由)				中央病院行き (下赤江・富山駅前経由)				リハビリセンター行き (下赤江・豊若町・済生会病院経由)				中央病院行き (下赤江・富山駅前経由)			
富山駅前	県リハセンター南口 (ワークセンター前)	県リハセンター (新病院正面玄関)	富山駅前	富山駅前	県リハセンター南口 (ワークセンター前)	県リハセンター (新病院正面玄関)	富山駅前	富山駅前	県リハセンター南口 (ワークセンター前)	県リハセンター (新病院正面玄関)	富山駅前	富山駅前	県リハセンター南口 (ワークセンター前)	県リハセンター (新病院正面玄関)	富山駅前
8:00	8:28	9:06	9:40	8:10	8:38	9:31	10:00	9:15	9:46	10:06	10:40	9:30	9:58	10:16	10:45
10:55	11:26	11:36	12:05	11:30	12:01	12:06	12:40	12:25	12:56	13:06	13:35	12:30	13:01	13:06	13:40
13:55	14:26	14:36	15:05	14:30	15:01	15:06	15:40	15:55	16:26	16:56	17:25	16:20	16:51	17:06	17:40
17:25	17:56	18:19	18:50												



病院の情報をもっと知りたい方は、ホームページにアクセスしてね!



【お問合せ先】

◆富山県リハビリテーション病院・子ども支援センター

〒931-8517 富山県富山市下飯野36番地 ☎(076)438-2233(代)

ホームページ <http://www.toyama-reha.or.jp>